



岩手県県北家畜保健衛生所  
岩手県北家畜衛生協議会

### 目次

定期報告を提出しましょう	・・・1
ヨーネ病の発生を防ぐために	・・・2
豚熱ワクチン接種農場における第3回免疫付与状況確認検査の結果	・・・3
鶏伝染性喉頭気管炎に注意	・・・4



飼養者の皆様へ

## 定期報告を提出しましょう！

年に1回、家畜の飼養者は、飼養状況と衛生管理基準の遵守状況の報告が義務（家畜伝染病予防法）となっています。

家畜を飼養している方は必ずご提出ください。

### 提出する内容

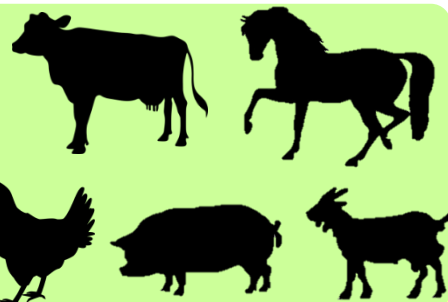
### 提出窓口

- 令和5年2月1日現在の状況を記載願います。
- 「定期報告書」 ※毎年必ず報告  
（基本情報、飼養衛生管理状況のチェック）
  - 「定期報告書の添付書類」  
※1度提出されている方は省略可能  
（農場の平面図、消毒設備や埋却地の詳細等）

- ① 県北家畜保健衛生所  
（持参、郵送、FAX）
- ② 市町村、JAの  
畜産担当窓口（持参）

### 提出期限

- 家畜（牛、豚、馬、羊、山羊など）  
→ 令和5年4月15日まで
- 家きん（鶏、きじなど）  
→ 令和5年6月15日まで



飼養をやめた場合は、当所までご連絡ください。

# ヨーネ病の発生を防ぐために

## 1 ヨーネ病とは

ヨーネ病は、牛、めん羊、山羊などの反芻動物がヨーネ菌に感染することで発生する病気です。通常、数年に及ぶ潜伏期間を経て持続性の下痢、消瘦、泌乳量の低下等を引き起こし、家畜伝染病の中でも特に経済被害の大きい病気です。潜伏期間の長さから、農場で感染牛が摘発される頃には、農場内にヨーネ菌がまん延していることも珍しくありません。有効なワクチンや治療法はないため、農場内にヨーネ菌を侵入させないことが重要となります。



水溶性の下痢を呈するヨーネ病の発症牛

出典：農研機構 動物衛生研究部門  
家畜疾病図鑑Web

## 2 県外導入牛の検査を必ず受検しましょう

本県の家畜保健衛生所では、県外導入牛のヨーネ病検査を実施しています。農場へのヨーネ菌の侵入を防ぐため、預託農場からの帰場牛を含め、県外から牛を導入した際には、必ず受検するようにしましょう。

対象：搾乳牛又は繁殖に供する目的で県外から導入した牛

申し込み：導入予定の1週間前までに、導入予定日や頭数を当所まで連絡してください

検査料金：**無料**

検査材料：導入後1週間以内に糞便1g以上を採取し、当所に搬入してください（採材に係る経費は自己負担となります）

注意事項：導入牛の検査結果が判明するまで（約1週間程度）隔離飼養し、他の飼養牛との接触を防ぎましょう

## 参考 全国及び本県での発生状況

国内では過去10年間で毎年数百～千頭程度の感染牛が摘発されており、本県でも毎年数頭が摘発されています。

年次	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
全国	405	573	783	691	624	817	831	1066	809	957
本県	4	18	5	0	4	19	11	19	2	4

# 豚熱ワクチン接種農場における 第3回免疫付与状況確認検査の結果

令和4年4月、本県において、豚熱ウイルスに感染した野生いのししが初めて確認されました。それ以降、2月16日現在で90事例が確認されており、盛岡市玉山区が県内の最北確認地です。

今後、陽性のいのししが北上すると思われることから、本病のワクチンを適切な時期に接種をし、免疫を高めることが感染防止のために重要です。

免疫付与状況検査は、本県の一貫農場で実施しており、第1回は全農場の繁殖豚の検査、第2回は全農場の肥育豚の検査を実施しましたが、第3回目からは県内の25農場を選定し、繁殖豚と肥育豚計1,452頭を検査しましたので、その概要をお知らせします。

## 検査結果

表1

対象豚	検査頭数	抗体検査結果※		免疫付与率
		陽性	陰性	
繁殖豚	717	688	29	96.0%
肥育豚	735	593	142	80.7%

※ ELISA検査を実施し、陰性の個体については、中和試験で判定しました。

表2

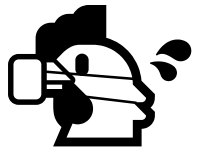
対象豚	農場数	免疫付与率	
		80%以上	80%未満
繁殖豚	25	23	2
肥育豚	25	18	7

今回、25戸、717頭の繁殖豚、735頭の肥育豚の検査を実施しました。**免疫付与率が80%以上であれば、群として十分に免疫を保持していると言えます。**個体別（表1）では、繁殖豚は96.0%、肥育豚は80.7%とどちらも80%以上でしたが、農場別（表2）では、繁殖豚が2農場、肥育豚が7農場で80%未満でした。80%未満だった農場は、国と協議したうえでワクチンを追加で接種しています。

免疫がない状態でワクチン接種した母豚（第1世代）では、抗体価が高値となる事例もあり、子豚での移行抗体の持続期間が長くなる可能性があります。

他方、移行抗体存在下でワクチン接種した母豚（第2世代）では、第1世代と比較して抗体価が低値になることが知られています。**当所管内は令和3年8月～10月に初回接種を実施しましたので、現在は、抗体価が高値の第1世代と低値の第2世代が混在していると思われ**ます。このような場合には、適切な接種時期を設定することが難しいことから、本検査を活用し、管理獣医師等と接種時期について、検討することが大切です。

# 鶏伝染性喉頭気管炎に注意！



## 鶏伝染性喉頭気管炎（ILT）とは

ILTは同病ウイルスの感染による鶏の届出伝染病で、鶏種や日齢を問わず、全ての鶏が感受性を有しています。発症率は非常に高く、死亡率は5～20%と言われています。主な症状として①開口呼吸や奇声等の呼吸器症状、②産卵率の低下、③血痰、④突然死がみられます。

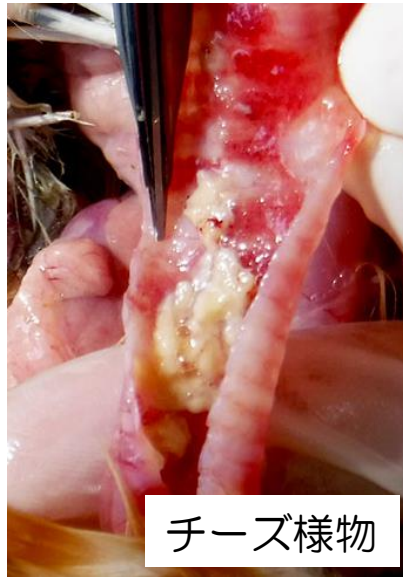
## 県北地域における発生事例

令和4年9月、本県では38年ぶりに県北地域の1農場で本病が発生しました。その後、同一地域の5農場で発生しました。いずれもワクチン未接種農場であり、1日の死亡率は最も高い鶏舎で4.6%に達しました。

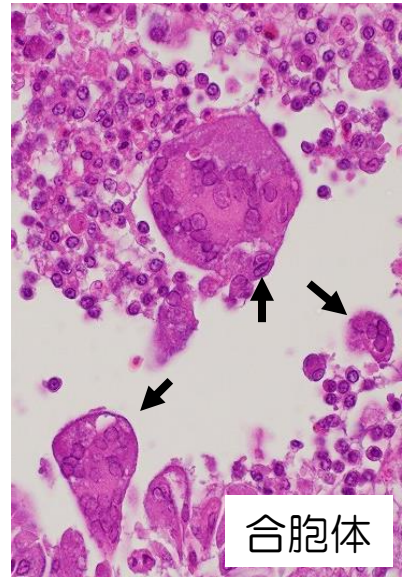
発症鶏の気管には、血痰やチーズ様物が認められ、組織検査により核内封入体を伴う粘膜上皮細胞の合胞体がみられました。



血痰



チーズ様物



合胞体

## 予防と対策

ILTの予防には、一般的な衛生管理の徹底とワクチン接種が基本です。鶏舎ごとの作業着・長靴の交換の徹底、鶏舎内外の消毒、死鳥置場及び堆肥置場等の消毒、ネット・金網等の設置による野生動物対策が重要です。ワクチンは用法どおり、点眼または点鼻で接種することが大切です。

### 《発行元・問い合わせ先》

岩手県県北家畜保健衛生所

電話：0195(49)3006

FAX：0195(49)3008

岩手県北家畜衛生協議会

電話：0195(49)3040